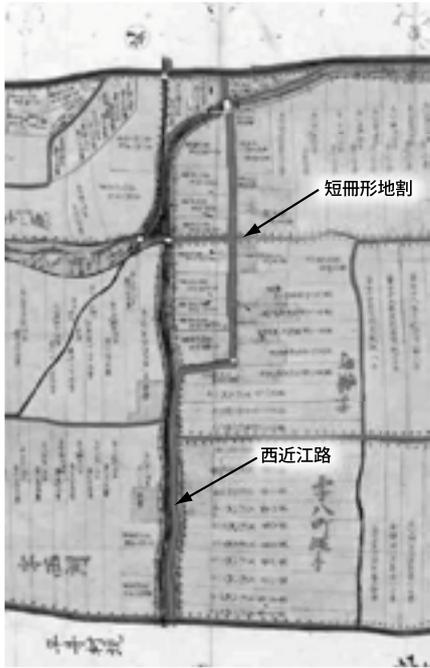


# 清水山城と城下

饗庭野の南東部に位置する清水山城は、全国的に貴重な遺跡として、山城・屋敷・館の範囲が国の史跡に指定されています。

城の南方には、湖西最大の河川であり、水運に重要視された安曇川が流れています。一方、山麓には、主要な道である西近江路が南北に縦断しています。

この西近江路に沿って清水山城下の集落が宮まれていました。まず、城下の一番北端に位置する集落が「今市」です。明治6年の



▲明治6年 今市村絵図

地籍図を見ると、道に面して間口の狭い「短冊形」の土地が連続してならび、市場の町なみを想像することができます。(左上写真)

「今市」は、その名称などから清水山城主 佐々木越中氏によって「新しくつくられた市」と考えられています。

のちに織田信澄（信長の甥）が築く大溝城下町には、新庄町・南市町・今市町の地名が見られ、城下町がつくられるにあたって、高島郡内の町場が移転されたことがうかがえます。新庄町は新庄

城下の町場、南市町は安曇川南岸の田中の町場、今市町は清水山城下の町場である「今市」と考えられています。「今市」は戦国時代末に

は大溝城下町に招来されるほど発展した町場になっていたと推測されています。

「平井」は、今市の南に位置し、清水山城への大手道が西近江路と交錯する地点にあたります。地元には、佐々木越中氏の家臣であった八田氏が居住していたとする伝承が残っています。明治6年の地籍図には、西近江路と大手道に沿ってブロック型の土地が見られることから、武家屋敷群が存在したのではないかと推測されています。

平井の南に位置する「安養寺」の集落は、清水山屋敷地の「地藏谷」にあり、織田信長の高島郡攻略の時に、清水山から現在地に移転したと伝えられています。

「川原市」は、西近江路が安曇川を渡る地点の北側に位置し、すでに、応永34年（1427）に書かれた『宋雅道すがら之記』にその名が見られます。

集落にある妙敬寺は、佐々木氏の一族が建立したと伝えられ、境内には佐々木高信の墓と伝えられる五輪塔が残っています。また、七川祭における「神御供の式」では、佐々木氏おかかえの鍛冶の子孫とされる「河原市鍛冶」の岡田一族が正座します。(右下写真) これらのことから「川原市」は、鎌倉時代より佐々木氏と密接な関係にあり、佐々木氏直属の職人集団が存在したと考えられています。

清水山城の城下は、国内の城下町がどのように形づくられていったかの過程を知る上で、その初期段階の事例として注目されています。

図文化財課 ☎(32)4467



▲七川祭 神御供の式

### 編集者のつぶやき

暑かった夏も過ぎ去り、ぐっと涼しい秋になりました。秋には、スポーツの秋、食欲の秋、収穫の秋などいろいろな楽しみがありますね。皆さんどんな秋をお過ごしでしょうか。表紙には、「収穫の秋」ということで、さくら園の園児が、地元農家さんたちの指導のもと、芋ほりをしているようすをパシャリ。ちびっこたちは、大きなイモを収穫し、「重い～」と言いながらも大満足の様子でした。(広報担当S)